

要　望　事　項

会派名 公明党

事 業 名	内 容 説 明
認知症コミュニケーション・ケア技法ユマニチュードの周知について	「その人のもつ能力を奪わない」ための様々な工夫を重ねながら現場でケアを実践し4つの要素「見る」「話す」「触れる」「立つ」を「ケアの4つの柱」と名付け、あなたを大切に思っていることを相手にわかるように伝える技術。そして、ケアを一つの物語の様に一連の手順①出会いの準備、②ケアの準備、③近くの連結、④感情の固定、⑤再開の約束で完成させる「ケアの5つのステップ」で構成するケア・コミュニケーション技法をユマニチュードとして編み出した。「自分が正しいと思っていることと、自分が実際にやっていることを一致させる為の手段」として技術を用い、その哲学を「ユマニチュード」と名付けた。「人間らしさを取り戻す」という意味を持つフランス語の造語である。
こどもまんなか社会の実現に向けて	こども基本法第10条の2に基づく「自治体こども計画」を速やかに作成する。その中で「はじめの100か月の育ちビジョン」①こどもの権利と尊厳を守る。②「安心と挑戦の循環」を通してこどものウェルビーイングを高める。③「こどもの誕生前」から切れ目なく育ちを支える。④保護者・養育者のウェルビーイングと成長の支援・応援をする。⑤こどもの育ちを支える環境や社会の厚みを増す。から全てのこどもの「はじめの100か月」から生涯のウェルビーイング向上の実現を目指すことが重要である。ライフステージ毎に切れ目のない包括的支援を実現することが必要。
少子化対策の更なる推進・充実について	現在、本市は第2子からの保育料は無償であるが、社会状況の変化等から、第1子からの保育料の無償化が必要不可欠。「真の子育て支援日本一」を目指す本市としては合計特殊出生率が向上し持続可能な自治体の継続を目指すことが重要
インクルーシブ教育について	障がいの有無に拘らず自身の個性を輝かすことの出来る教育環境が必要不可欠である。現状からの様々な改善を段階的に推進し、真のノーマライゼーションの社会環境を実現出来る様に誰一人取り残さない地域社会を目指すことが重要。
障がい者雇用について	現在、障がいを有している人達が増加をしている。就労先の拡大や就労方法等、様々な角度より検討をしていくことが必要不可欠である。官民が知恵を結集していく必要がある。時代趨勢もあり大変厳しい状況ではあるが、一人の人として素晴らしい人生の構築のための一助になれる様精進する。地域の方々の支え合いの時代の検証結果を出すことが重要